

嘉庫 嘉悦大学学術リポジトリ Kaetsu

University Academic Repository

The Education of Kaets Taka

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2004-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Shirao, Koichi メールアドレス: 所属:
URL	https://kaetsu.repo.nii.ac.jp/records/105

創立者 嘉悦 孝の教育

The Education of Kaetsu Taka

白 尾 公 一

Koichi Shirao

<要 旨>

創立者嘉悦 孝の始祖に始まり、孝の目指した教育、そして孝自らも学びそれを生徒に伝えようとした長い学究生活と、教壇生活の軌跡の根底にある理念を直視考察し、時代背景を交え概説したものである。

<キーワード>

嘉悦孝、建武中興、横井小楠、婦女新聞（復刻版第13巻）、向上主義、怒るな働け、学芸とその生涯、嘉悦学園一覧、教育五大綱領、嘉悦寮。

<目 次>

I. 創立者嘉悦 孝の教育

1. 嘉悦学園伝統の礎
2. 嘉悦 孝の建学と嘉悦大学の開学
3. 嘉悦 孝が目指した教育の軌跡と時代背景の概説
4. 別項解説 1) ~ 13)
5. おわりに
6. 参考資料

II. 資 料

1. 嘉悦 孝の関係資料学園所蔵一覧（平成15年12月現在）
2. 嘉悦学園創立100年沿革表

1. 創立者嘉悦孝の教育

1. 嘉悦学園伝統の礎

国家繁栄のための重要性を担う点において、嘉悦学園の伝統の礎は、既に、今を遡る14世紀に、第96代後醍醐天皇の側近として建武の中興に尽した嘉悦家の始祖「嘉悦悪四郎泰長」に始まる。

時は、元弘3年(1333)後醍醐天皇が^{おき}隠岐の島(現 島根県沖合約60キロ)に配流されてから一年、嘉悦悪四郎泰長を天皇救出隊長とする部隊が天皇を小舟に奉迎し、隠岐の島を夜陰に乗り脱出、一路^{ほうき}伯耆海岸(現 島根県)を目指し、夜見ヶ浜に上陸。屈強の武将「泰長」は天皇を背負って進む。追討勢を制し至難な遠路を凌ぎ、遂に安全な船上山に到達、天皇救出に成功する。

嘉悦悪四郎泰長は島根県の名和の人、一族は広大な領地を有し、日本海の制海権を握る海上武士団、いわゆる水軍である。長兄「名和長高」が後醍醐天皇より建武中興の功によって、長年という名と、帆船の「^{かさじるし}笠標」(甲冑などに付ける家のしるし)を賜った。爾来その帆の標が嘉悦家の家紋として今に伝わっており、嘉悦学園の校章のルーツもここにある。「泰長」の子「長安」は、肥後(現 熊本県)に下向し豊福城主となる。それから凡そ700年歴代肥後に留まる。本学園の創立者「嘉悦 孝」は、「泰長」の^{まつえい}末裔第19代目に当る。

2. 嘉悦 孝の建学と嘉悦大学の開学

本学園の創立者嘉悦 孝は、慶応3年熊本に生れる。幕末の開明的先覚者¹⁾横井小楠の高弟であった父 氏房を通して、小楠の東洋の哲理と実践躬行の現実に根ざした実学思想の^{しん}深遠なる教えが、いつしか幼き孝の感懐を促した。而して、孝は僅か7・8才にして既に教育を自覚し、成立学舎在学中に家庭教育における母の重責を²⁾論文で説き、明治36年(1903)37才で日本で初めて東京神田に夙志の私立女子商業学校を開校した。

創立者の教育理念は、もとより女性の天職は家庭の主婦にありとして、意欲に富み自治の能力と実用の能力を備え、家庭の上に最も適切な婦人となる事を第一義とし、そのために家庭経済に必要な実学教育と、校訓³⁾「怒るな働け」の教えに基づく人間性の育成を併せて、役に立つ実学の学校教育を目指した。この実学教育と人間教育は、将来母となる家庭婦人の果たすべき子女教育に欠かす事の出来ない必須の条件として、唯一女子に向けられてきた。その理念の重要性は普遍であるが、爾来100年時代が進んだ^{よう}現今、男子にも同様にその^{てい}要諦を認めて然るべきものとなった。

然れば、伝統の実学教育と人間教育の実績の上に、創立者の教育理念を更に発展させ、次第に高まる男女共同参画という時代が希求する人材育成のため、平成13年(2001)共学の4年制大学開学に至った。この新時代の教育への布石は、共学という学園創始以来の事であるところに、より大きな意義を持つものであるといえる。

3. 嘉悦 孝が目指した教育の軌跡と時代背景の概説

嘉悦 孝（以下「孝」と表記）は、新しい日本の夜明けを迎えようとする維新直前の慶応3年1月26日熊本細川藩士知行300石嘉悦氏房の長女として呱呱の声をあげた。父氏房は横井小楠門下の四天王と呼ばれた高弟の一人であるが、本来女子に学問の必要を認めていなかった人である。然し孝は、ひたすら学問を求め、それに専念する事になる。幼少より父の傍らで小楠の教育思想を身に享けてきたと考えるのが自然であろう。小楠の思想を凝縮し端的に表した有名な⁴⁾教育漢文がある。これを以て孝の教育と学究生活を見る時、その思想のルーツが小楠のその漢文にある事がよく分かる。

孝が学校を創める当時の女学生の一般の風潮として、外交官の妻及び文学士の夫人になる事に憧れる等華やかな気分が浮かれ、卒業後も田舎への帰郷を拒んだりする状況が見られた事から、この先の日本の将来を憂いて、孝は最初堅実な女子の気質をつくるため女子の農学校を作りたいと考える。然し東京市内に実習耕地の確保等も容易ならぬ事から、然らば、と、経済的で堅実な女性を育成する事に着目、質実な意図の下、幾度か立案し想いを練り、日本婦人として何人にも必要な婦徳婦功を体得させるための教育機関として女子の商業学校を興した。時は、明治36年日露戦争の前年である。この事は昭和15年孝教壇50年記念に、志垣 寛編纂により上梓した「嘉悦 孝先生伝」の中に記されている。孝が学校を創立した頃の女学校教育は、深窓令嬢の遊芸的な教育が一般的であり、女子の実学教育は未だ類例のないもので一般の理解も極めて薄かった。生徒募集並にカリキュラムなど工夫を凝らしたものと想像されるが、規制の少なかった各種学校であったことが幸いし、沿革表にも記載してある通り種々なる学科課程を試みながら、一方⁵⁾ 婦女新聞の協力による本校に係るあらゆる学校記事の掲載等の効果も得られ、次第に一般の人々の知るところとなり生徒も増大して行く。創立時の生徒は僅か11名、教師の数の方が多かった。神田錦町の東京商業学校の校舎を借用し、それから4年後の明治40年に市ヶ谷駅前に独自の校舎を新築し移転する。大正5年になると生徒は250名となり、その5年後には800名、校舎は手狭となり、大正8年より同11年迄東京物理学校内に分教場を置く。昭和5年からは、孝が富士見高等女学校の校長を兼務する事になったのと同時に同校に同7年迄分教場を置き、そこで女子商と高商生の一部が授業を受け、寮も同校の寮を借用し26名が入寮している。昭和7年に現富士見にあった陸軍軍医学校跡に移転。校舎など居抜きで使用する。昭和10年には1000名を擁した。孝の教育の円熟期でもある。昭和4年に更にハイレベルの高等商業学校（4年制）を併設し昭和8年には既に第1回生、従って10年には3回生が卒業した。一向専心実学教育に徹したその結果、孝のこの先駆的展望の実学教育により巣立つ卒業生の極めて優秀であった事から、その有能な卒業生の能力が実社会の注目するところとなり、女性の社会進出と女性の自立地位向上の実現に結び付いて行く。因に高等商業卒業生は、卒業と同時に会計士資格・教員無試験検定の資格が得られ、有名企業からの求人も筆頭に挙げられていた。この隆盛を極めて行く孝の教育に^{はばか}憚る事なく時勢は動く。軍事色が次第に強まる。昭和7年の満州事変

は同12年の支那事変（日中戦争）へと拡大し教職員の応召が続く。更に同16年12月第二次世界大戦が勃発する。戦争は激化し度重なる空襲に見舞われ幾つかの学寮も焼失する。空襲のため昭和17年3月卒業予定者は16年12月、18年3月予定者は17年9月、19年3月予定者は18年9月、という具合に繰上げ卒業を行ない、また生徒達は学徒勤労動員により、寮から或は自宅からと直接軍需工場に行く。授業どころではない状況が続く。戦況は悪化、物資不足はいよいよ厳しく、食糧日用雑貨すべて店頭から消える。空襲は日夜を問わずサイパン基地から頻ぴんと襲来。日本では開発不可能であった四発、その四発の空の要塞とも言われたアメリカの巨大重爆撃機B29の編隊が堂々と侵入して来る。ひときわ高い空冷エンジンの爆音太鼓連打の如き響が頭上を覆う。昭和20年5月25日夜半東京は最大規模の大空襲に見舞われる。然し迎撃は叶わず。この恐ろしい光景を言い表わす事は出来ないが、学園の四囲は火の海と化し、空は真っ赤に染まる。本学園では折から宿直の4職員と校内止宿の経専学生数名が身を挺して勇敢にも決死の防火に挑み校舎を守る。木造総2階22教室は総て焼失を免れた。当校舎は同11年より逐次改築工事が進められて9年、長い年月をかけてほぼ完成していた校舎である。校舎も然る事ながら、学校の重要な教務書類学籍等も焼けずに残る。この大きな功勞に対し感謝を尽くす言葉を探し得ない。この勇氣ある防火の活躍が逸話のうちに忘れ去る事があってはならない。上野駅構内には戦災孤児が溢れる。同年8月6日広島に、9日は長崎に原爆が投下される。同8月15日敗戦を迎える、孝78才。物資不足は戦後更に深刻化し、食糧難と住宅難が続く。学校は校舎が無事であった事で直ちに授業再開が叶えられた。この年の6月に罹災した近隣の三輪田高等女学校に8教室を貸与、翌21年6月には同様に罹災した隣接の法政大学にも夜間教室の一部を貸与した。

昭和初期頃より16年頃迄（推定）⁶⁾「嘉悦学園一覧」B6版（163頁）の冊子を毎年発行していた。この冊子は、正に孝の教育の集大成と言えるもので、内容は学園の沿革に始まり、学則・校長略歴・学士・博士号から担当科目を含めた職員一覧・職務分掌・出身校一覧・身体検査一覧・就職一覧、更には私立学校令に至る迄50項目以上にわたり学生生徒教職員の学校生活総てに係るものが余す所無く網羅されている。孝自ら角々まで心を配り編集したものであろう。この中には勿論⁷⁾学園教育方針、そしてそれを具現する孝の⁸⁾教育五大綱領の成文がある。それは時代の要諦を満たす語義を以って記してあるが、その核心は、いつの時代にも通用する必須のもので、普遍的真理に基くものであり、これはまた、孝の教育が具現された最後のものとして孝の教育研究には不可欠の貴重な資料である。一部のページの欠落はあるが、唯一昭和9年度の原本が一冊現存している。孝は大戦終結ののち3年半後当校内で他界、83才。折りしも学制改革遂行中の時である。孝没年の翌年当学園の短期大学が発足している。戦後国体も変り学制も変った新しい時代の教育に向かって、孝はそこに如何なる教育の青写真を描いたのであろうか……。

孝の教育は先進であった故一般になじみがなかった事で模索し度々⁹⁾学科課程を変更しているが、基本的にその理念の根幹に変化はない。成立学舎在学中に記した母の重責に就いて

の論文に始まり学校創立2年後の明治38年¹⁰⁾ 社会評論雑誌「向上主義」の中で述べた「女子実業教育の誤解」並に「婦人の純潔」と題した論説、そして多くの著書等でその理念の一貫性を知る事が出来る。また、孝は非常に精神教育を重視し特に漢学の中にその心を学び自らその修養に努めていた。¹¹⁾ 三島中洲の「学芸とその生涯」の中に、慶野正次筆記の孝の回想が原文のまま収められている。それによると「此の頃私は仏教の研究をいたしておりますが、矢張り身の修養の為には儒学を最も大切なものと存じます—中略—私は此の学校（日本女子商業学校）でも孟子を教科書として¹²⁾ 修身を受持て居る様なわけでございます。まったく私は身から孟子を50年も離さないと言う様な生活をいたしております」とある。この事は取りも直さず求めるものの究極は東洋の精神文化の真髄であり、孟子の祖述があったとしても、人類永遠の教師といわれる儒家の祖である孔子をより深く知り究めるため猶必要とされた孟子研究であったのではなからうか。

孝は、よく、会得する・満たすという意味に「安心」という言葉を用いているが、物質的な「安心」を求める経済と、健全な精神が一体となって身に付くよう、物質的な「安心」を実学に求め、精神的な「安心」を漢学に求めたのであろう。孝が学校を創める以前より漢学を学ぶため、二松学舎に通い始め30年も通い続け研鑽を積んでいた事について、二松学舎大学文学博士斎藤嘉代子教授がその実績を調べ平成11年孝没後50年記念講演で「嘉悦先生と漢学」と題し述べている。

最後に、孝の女子教育の原点とする重要なものに¹³⁾ 学寮がある。孝は何を為すにも人格がその基礎に必要であるとしており、最初の大切な人格教育・仕付けは、日夜子供と接する時間の最も多い母親に、その重責がある事を早くから指摘している。寮での教育は家庭の延長の一つと考え、学校教育と並行させ欠かす事の出来ない重要な場としていた。故事にも、三つ子の魂百まで・鉄は熱いうちに打て等とある。また近年では、人は三才迄に決まる。という学説もある。つまり脳の感受性期（臨界期）がそこにある。という事であろう。脳の神経細胞は12才頃までに完成し、その発達度は、それ迄に如何なる環境で、どんな事を教えたかにかかり、知能や精神活動の将来を決める脳神経細胞の規模がそこで決まる。と、多くの学者が論じている。孝の主張した幼児期に於ける母親の重責の真理を、この事に重ねて考える事が出来るが、方今に於ける教育改革の枢要は、ここにあるのではなからうか。

孝の学寮は開校と同時に置かれている。初期に於いては孝の実兄宅の部屋を借用している。その後孝の居宅も使用した。市ヶ谷校地内に置かれた寮は27年間使用され、孝存命中では最も長期の寮となった。収容数は30名。孝存命中の最後の寮は戦後校舎教室の一部に畳を敷いた寮である。そこには16名を収容、孝もまた空襲で自宅焼失のため校内に居住していた。同様に幾組か寓した職員の家族もある。その校内寮の期間は昭和20年より5年余りである。市ヶ谷寮及び孝の居宅の寮では、孝の理想とする寮形態で生徒達はその日常生活の中で孝の薫陶に接していた。この寮に於ける教育は、規則に当てはめたり押し付ける様なものではなく常に自覚を促すという形のものである。今その孝の筆致に成る理念核心の

遺墨「以身示範」(身を以て範を示す)が残っている。この指導方法の寮に、東京区内在住の生徒も希望により入寮させていた。寮は、校訓「怒るな働け」の実践の場としても最も重要な場であり、寮は孝の教育の原点と言われる所以がそこにある。寮は昭和26年以降も都内に複数設置され、それぞれの寮に卒業生が寮監となって、一つの規則の下に生活する形態の寮に変る。だがその後は時代の変化と共にプライバシーが優先され、寮は次第に学校教育から分離して行き、孝が寮に望んだ意は隔絶。平成8年を最後に嘉悦の寮は93年間の歴史を以てその役目を終える。

4. 別項解説 1) ~ 13)

- 1) 横井小楠 文化6年(1809)8月13日肥後藩士横井時直の次男として出生、明治2年(1869)1月5日朝廷より帰宅途中刺客の凶刃により仆倒 61才没

幕末の開明的先覚者肥後藩士

勝 海舟や坂本竜馬等に大きな影響を与えた英傑。

- 2) 孝の成立学舎在学中の論文

論題「女子の学問は何の為なるの説」

論文の主たる主張

「有識の士を養成するは学校の教にありと雖も一は家庭の教育にあり。然らば有識の士の出づると出でざるとは母の賢不賢いえどに関係するや大なり」

※婦女新聞復刻版(不二出版)の第13巻に収録あり。

- 3) 怒るな働け

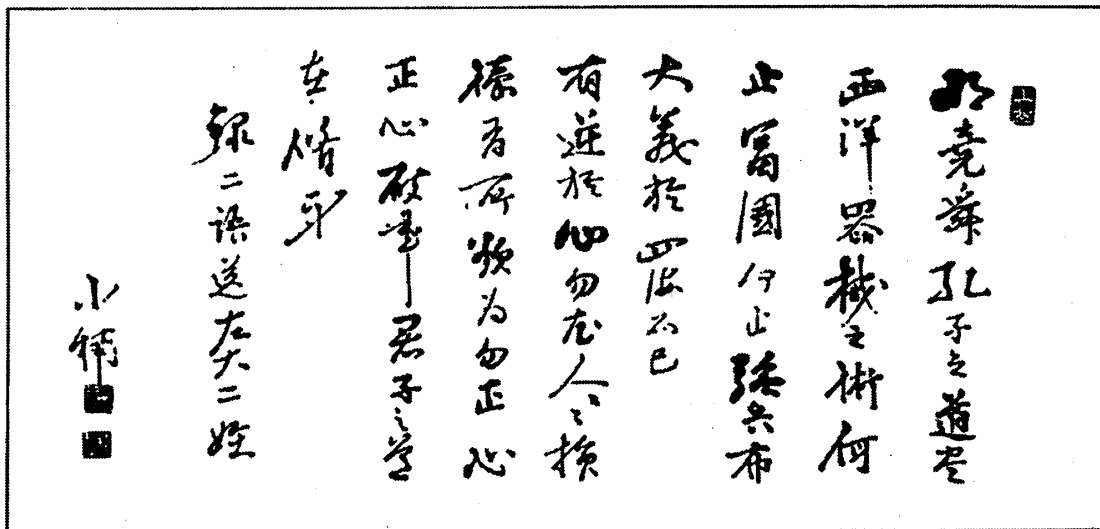
この句は、二つの単語を合わせた慣用句であるから、それぞれの単語に分離しては出せない別な意味を表すので留意。孝の著書「私の進言」の34~36ページの記述にあるのが最も適切で分かりやすい。

—「怒るな」の戒め—

「尤とがむるな・咎とがむるな」の類語に「怒るな」がある。古くは孔子の「忠恕ちゅうじょ」の思想に始まり、徳川家康も「怒る」事を戒め、そして小楠も然り、更に西郷南洲もまた同様に「己を尽して人を咎めず……」として寛大な心で事を為した。「怒るな働け」も、これ等に通じるものであり、古今の偉人が皆共通に重要としてきた戒めである。

4) 教育漢文

肉筆原文

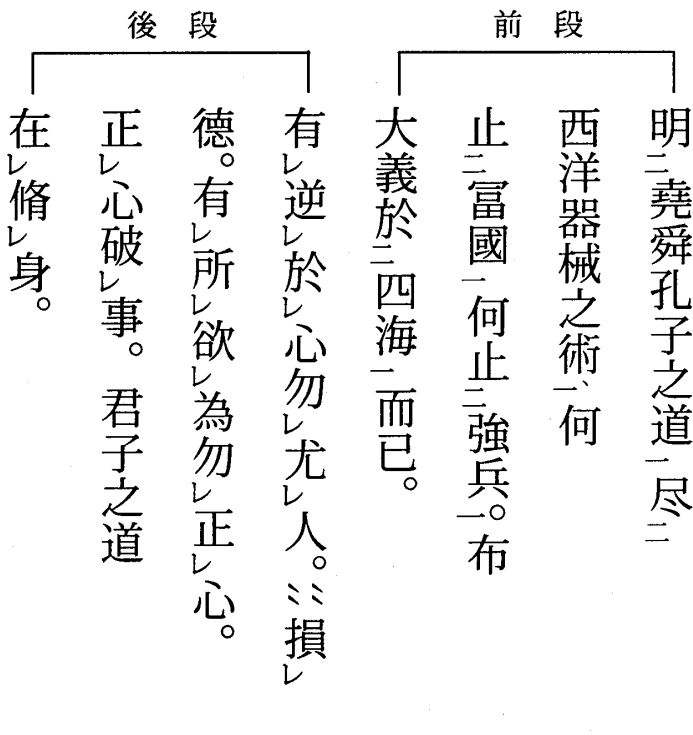


原文

横井小楠が、二人の甥（横井左平太と大平）の渡米に際して贈った教育漢文

横井小楠記念館 蔵

（この漢文は、小楠の思想の核心を最も端的に言い表わしている）



録二語送左大二姪

小楠

録 …しるす、記録する、書き付、著、の意。

（解釈参考）

- 二語 …ここでは前段と後段。
- 送 …はなむける（激励の気持ちを込めて贈る）、さし出す、物を与える、の意。
- 左 …左平太（甥の名）。
- 大 …大平（甥の名）。
- 二 …二人（甥二人の意）。
- 姪 …音読みはテツ、兄弟の男の子（甥オイ）。
現在は専ら兄弟姉妹の女の子（姪メイ）に使う。

訓読

<p style="text-align: center;">後 段</p> <p>心に逆らうこと有るも人を尤むること勿れ。人を尤むれば徳を損こなう。為さんと欲する所有るも心に正にする勿れ。心に正にすれば事を破る。君子の道は身を脩むるに在り。</p>	<p style="text-align: center;">前 段</p> <p>堯舜孔子の道を明らかにし、西洋器械の術を尽せば、何ぞ富國に止まらんや、何くんぞ強兵に止まらんや。大義を四海に布くのみ。</p>
---	---

二語を録して、左大の二姪に送る。

小 楠

訳

<p style="text-align: center;">後 段</p> <p>心に気が食わぬ事が起きても、人をとがめてはならない。人をとがめれば徳を失なう。何かをしようとする時、何もしない内に結果だけにふけり、それをあてにする事があつてはならない。その様な仕事への取り組み方では、必ず失敗に終る。立派な人間への道は、ひたすら修身にある。</p>	<p style="text-align: center;">前 段</p> <p>堯と舜という、中国太古の帝王の高徳を知り、更に孔子の貴き教えを良く学び、その上で、西洋の技術を身につけたならば、機械文明を盛んにし、国を富ませるだけで終つてはならない。また軍隊を強くして国を守るだけでもいけない。また人として守り行うべき最も大切な道を全世界に広めなければならぬ。</p>
---	---

二つの教えを記し、左平太と太平二人の甥のになむけとする

小 楠

註. 横井左平太 (1845 ~ 1875) 横井小楠の兄、時明の子。

横井太平 (1850 ~ 1871) 左平太の弟。

二人は勝海舟の海軍塾で海軍海事修行に励む。慶応2年(1866)共にアメリカへ密航。ニュージャージー州ニューブラウンズウィックのアナポリス兵学校に学ぶ。兄左平太は、明治8年(1875)6月元老院権少書記官に就任したが、同年10月3日肺疾にて死去。

弟太平は渡米後3年足らずの明治2年末(1869)肺を病んで一人帰国。病気をおして熊本洋学校設立のため尽力、純然たる洋学教育を主張し、洋学校教師ジェーンズ招聘に成功するも明治4年(1871)4月2日開校を見ずに死去。

5) 婦女新聞 福島四郎設立 明治33年5月10日創刊

孝の学校創立前より関係記事を好意的に掲載する。大正2年日本女子商業学校創立10周年記念に校歌を作詞。福島は、孝の妹婿*小田綱太郎の従兄弟。

※小田は、孝を助け学校創立に尽した。

6) 嘉悦学園一覧

(本来は全ページ載せたいが紙面の都合で口絵内容と目次のみ掲載する)

口絵 写真……校長嘉悦 孝・校舎全景・顧問及び学監・校旗

校訓「怒るな働け」・校歌(歌詞と譜)

目次

1. 学園沿革大要
2. 学校長嘉悦 孝略歴
3. 学園教育方針
4. 財団法人寄付行為、付財産目録
5. 職務章程
6. 職務分掌規定
7. 職員服務心得
8. 会計課事務細則
9. 図書室規定
10. 非常事変に関する規定
11. 日直規定
12. 講習会規定
13. 職員
 - (イ) 学園役員
 - (ロ) 学校職員
 - (ハ) 日本女子高等商業学校職員
 - (ニ) 日本女子商業学校職員

日本女子高等商業学校

1. 学年暦
2. 日本女子高等商業学校学則
3. 教授会規定
4. 生徒心得
5. 研究生規定
6. 生徒
 - ◎在學生
 - (イ) 生徒出身地別一覧表
 - (ロ) 年齢一覧表
 - (ハ) 出身校別一覧表
 - ◎卒業生
 - (イ) 就職先一覧表
7. 付
 - (イ) 光風会々則
 - (ロ) 翠光会々則

(ハ) 葆光会々則

日本女子商業学校

1. 学年暦
2. 日本女子商業学校規則
3. 生徒心得 付 服装規定
4. 教授規定
5. 訓育規定
6. 管理規定
7. 職員会議規定
8. 生徒成績調査規定
9. 家庭との連絡規定
10. 校外に於ける生徒の取締規定
11. 生徒
 - ◎在校生
 - (イ) 在校生徒父兄職業別一覧表
 - (ロ) 出身小学校別一覧表
 - (ハ) 身体検査一覧表
 - (ニ) 志望者年度別一覧表
 - ◎卒業生
 - (イ) 卒業生年度別一覧表
 - (ロ) 年度別就職一覧表
12. 付
 - (イ) 常磐会々則

付 録

1. 私立学校令
2. 専門学校令
3. 公私立専門学校規程
4. 高等女学校令
5. 実業学校令
6. 専門学校入学者検定規定
7. 実業学校教員検定に関する規定
8. 計理士法
9. 計理士法施行令
10. 商業学校規定

7) 学園教育方針

(昭和9年度 嘉悦学園一覧より原文のまま)

原文	本学園教育ノ目的ハ、日本女子トシテ必須ノ徳性ヲ涵養シ、實用的ノ學術ヲ教授シ、尚ホ穩健ナル經濟思想ヲ養成スルヲ主眼トス。而シテ日本女子商業學校ノ教育ハ主トシテ堅實ニシテ經濟能力ノ豊富ナル家庭ノ主婦ヲ養成スルト同時ニ、必要ニ際シテハ獨立シテ實業ニ就キ得ルノ能力ヲ附與スルニアリ。日本女子高等商業學校ニ於テハ一層ソノ程度ヲ向上スルト共ニ中等學校教員トシテノ資格ヲ完備セシムルヲ目的トス。
----	--

8) 教育五大綱領

(昭和9年度嘉悦学園一覧より原文のまま)

(注. 教育五大綱領の分析参考)

教育五大綱領		分析	
		核 心	教育摘要
一.	<p>尊皇愛國ノ心情ヲ養成スルコト</p> <p>生徒ハ將來日本婦人トシテ國家社會ノ發展ニ寄與スルハ勿論、家庭ニ於テハ母トシテ子女ノ教育ニ當リ、第二ノ國民ヲ養成スル重キ任務ヲ有スルヲ以テ、我ガ國民教育ノ根本タル尊皇愛國ノ心情ヲ涵養セザルベカラズ。</p>	愛	<ul style="list-style-type: none"> ・敬愛 ・責務 ・社会貢献
二.	<p>敬神崇祖ノ信念ヲ養成スルコト</p> <p>家族制度ハ我國成立ノ大本ニシテ、ソノ據テ來ルトコロハ、敬神、崇祖ノ觀念ニアルヲ以テ、將來家庭ノ主婦タルヘキ生徒ハ、敬神崇祖ノ信念ヲ養成シ置カザルベカラズ。</p>	人 道	<ul style="list-style-type: none"> ・報本反始 ・精神修養 ・感謝・報徳 ・礼儀・行儀・作法 ・道徳
三.	<p>醇厚中正ノ思想ヲ養成スルコト</p> <p>驕激偏固ヲ戒メ、醇厚中正ノ思想ヲ涵養スルコトハ方今ノ時世ニ於テ、最モ肝要ナルノミナラズ將來母トシテ子弟ヲ教養スル為ニモコノ思想ノ涵養ハ特ニ必要ナリ。</p>	平 和	<ul style="list-style-type: none"> ・融和 ・協調 ・思いやり
四.	<p>經濟運用ノ實力ヲ養成スルコト</p> <p>國家經濟ノ本ハ一家經濟ニアリ。主婦ハ一家經濟ノ主宰者ニシテソノ能力ノ適否ハ一家盛衰ノ原因ヲナスノミナラズ又實ニ國運ノ消長ニモ關ルモノナリ。本校長特ニ見ル所アリテコノ教育ニ努力シツ、アル所以ナリ。</p>	学 問	<ul style="list-style-type: none"> ・教養 ・学力 ・技術 ・実学
五.	<p>健全ナル身體ヲ養成スルコト</p> <p>身體健全ナラザレバ、精神ノ安固ヲ欠キ學術ノ進歩ヲ期シ難キノミナラズ將來一家ノ主婦及ヒ子弟ノ母トシテ充分ナル活動ヲ望ミ難ク、又實社會ニ出デ、業務ニ就カント欲スルモノニアリテモ、強壯ナル身體ヲ必要トスルコトハ言ヲ俟タザル所ナリ。</p>	健 康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な体 ・健康な精神（心）

注. 文章言語は、その時代の要諦を満たすための語義を以って記してあるが、その核心にあるものは普遍的に人間教育に必須のものであるところを見逃してはならない。更に孝の教育ビジョンは、論文・論説等でその根底にあるものは明らかであるが、それを教育に具現化したものは開校初期から円熟期の昭和初期に至る迄種々と充実に向けての工夫がなされ変化があるので、その点研究者は留意。

授業科目

日本女子高等商業學校

學科課程及教授時間數

本科及專修科ノ學科程度並ニ每週教授時數ハ以下ノ如シ

第一 本 科

科 目	第一學年 每週時數	第二學年 每週時數	第三學年 每週時數
修 身	一	一	一
商 業 通 論	三		
銀 行 及 金 融		二	
貿 易 及 外 國 爲 替			
交 通 論			
保 險 論			二
經 營 論			二
取 引 所			一
商 業 實 踐			二
商 業 地 理	一	一	
商 業 歷 史			一
商 品 學	二		
簿 記	三	三	
會 計 學			二
原 價 計 算 論			一
經 濟 原 論	二		
商 業 政 策 及 工 業 政 策		二	
財 政 學			二
統 計 學		一	
家 計 經 濟		一	
法 學 通 論	二		
民 法		三	
商 法			三
商 業 數 學	二	二	
珠 算	一	一	一
工 學 要 論	一		
國 語 及 漢 文	二	一	一
書 法 及 作 文	一	一	一
英 語	八	八	八
哲 學 概 論	一	一	
家 事 裁 縫	二	二	二
音 樂 體 操	二	二	二
合 計	三四	三四	三四

第二 專 修 科

科 目	要 目	每週時數
修 身		一
商 業	商業通論、銀行及金融	五
簿 記	商業簿記、銀行簿記	六
珠 算		二
經 濟	經濟原論、財政學	四
法 律	法學通論	二
家 事 裁 縫		四
音 樂 體 操		一
選擇科目	商業學、會計學、經濟學、法律學、哲學、國語及漢文、英語、家事裁縫等ノ中ヨリ適宜選定シテ學年毎ニ公示ス	九
合 計		三四

日本女子商業學校

學科課程

各學年ニ於ケル學科課程及每週教授時數ハ以下ノ如シ

科目	程度	本 科 一 年	一 週 時 數	本 科 二 年	一 週 時 數	本 科 三 年	一 週 時 數	本 科 四 年	一 週 時 數
修身(作法)		道德要領及作法	(一)	同 左	(一)	同 左	一	同 左	一
公 民									一
國 語 漢 文	講 讀		五	同 左	五	同 左	四	同 左	四
作 文	普 通 文		一	同 左	一	同 左	一	商 業 作 文	一
習 字	楷 行 書 字	ペン習字	二	同 左	二	同 左	二	同 左	二
英 語	譯 讀 習		三	同 左	三	同 左	三	同 左	三
歷 史 地 理	日 本 本 地 史 理	日本歴史地理	三	同 外 國 地 理	三	東 洋 史 左	三	西 洋 史 概 論	三
數 學	算 珠 術 算		二	算 代 珠 術 數 算	一	代 及 幾 數 何 算	二	商 珠 算 算	二
理 科	生 化 學 物 理		二	生 理 衛 生	一	化 學、鐘 物	一	物 理	二
家 事						衣 食 住	一	育 兒 看 病	二
圖 畫	自 在 畫		一	同 左	一	同 左	一	同 左	一
簿 記	家 計 簿 記		一	商 業 簿 初 步	二	商 業 簿 及 銀 行 簿 初 步	三	銀 行 簿 記	二
商 事				通 論	一	各 論	二		
經 濟								大 意	一
裁 縫	運 計 法 通 裁 縫	通常衣服裁縫	四	同 左	四	同 左	三	洋 裁 初 步 ミ シ ン 使 用 法	二
唱 歌	唱 歌		一	同 左	一	同 左	一	同 左	一
體 操	徒 手 體 操 戲	及 遊 戲	二	同 左	二	同 左	二	同 左	二
合 計			三一		三二		三二		三二

備考 一、上表の他高學年に於てタイプライティングの實習を行ふことあり

実務科 (2年制 夜間)

科目	程度	要 目	一週時數
修身、公民		國民道德ノ要旨、公民ノ心得及作法ノ大意	一
國 語	講 讀		三
作 文	普通文及商業作文		一
ペン習字	楷行草及數字		二
英 語	講讀習字		二
珠 算	加減乘除及暗算		五
簿 記	商業簿記		三
商 事 要 頃	通論各論		一
合 計			一八

9) 学科課程の変更

開校2ヵ月後の明治36年12月4日には、はや学科目改正と新学科増設の認可願を申請している。

〔申請内容〕

現行の学科課程2ヵ年を、1ヵ年程度に短縮し、「特別科」と改称する件。並に新たに「普通科」（後の本科）4ヵ年程度と「専攻科」1ヵ年程度の2科を増設する件。それぞれにカリキュラムを組み申請書に添付している。その後も幾度か科の増減等を行ない工夫を凝らしている。

明治36年9月 私立女子商業学校設立認可申請時に添付提出した学科課程

明治36年開校時（学科課程）

東京都公文書館所蔵 625-D5-4-62 より

科目	壹學年	一週時數	貳學年	一週時數
修身	實踐倫理	1	同左	1
國語	講讀、作文	4	同左	3
習字	楷行草	4	同左	3
數學	和洋普通算術	6	同左	4
英語	讀方、會話、習字	4	同左、商用會話、商用作文	4
簿記	家計簿記	2	商用簿記及銀行簿記	3
商事	通論、賣買、習慣、等大意	2	保險、運搬、銀行、税關、取引倉庫、等大意	3
地理歴史	本邦商業地理歴史	1	内外商業地理歴史	1
裁縫	理論實習	5	同左	5
家事	衣食住	1	育児及衛生	1
經濟			經濟大意	1
法律			商法及民法大意	1
計		30		30
備考.	女子商業学校 始業 午前8時 終業 午後2時 東京商業学校 始業 午後5時30分			

※学園に現存する学籍は、明治42年以降のもののみである。従ってそれ迄の学科目に就いては公文書館等所蔵のものに頼るのみである。

注. 經濟以外の実学系の科目が多い事にも注目しなければならない。

明治36年10月 開校時の学則

(全17条中より抜粋一覧)

東京都公文書館所蔵 625-D5-4-62 より

項 目	事 項
教 育 目 的 (原 文 通 り)	本校ハ商家ノ子女及ビ諸学校ノ生徒ニシテ將來商業界ニ身ヲ委子ムトスル者ニ實用ニ最モ適切ナル学科ヲ教授シ特ニ商業道德ヲ修養セシムルヲ以テ目的トス
修 業 年 限 2 カ 年 (1年を3学期に分ける)	1学期 9月～12月 2学期 1月～3月 3学期 4月～8月
授 業 時 間	午前8時～午後2時
休 日	日曜日 大祭祝日 皇后陛下御誕生日 冬休み 12月20日～1月10日 夏休み 8月16日～9月10日
学 科 目 及 び 時 間	別表前頁記
入 学 者	満14才以上 高等小学校2年修業もしくはこれと同等以上の学力あるもの
入 学 期	毎年9月 臨時入学可
授 業 料	1ヵ月1円50銭 毎月5日納入
入 学 金	1円

注. 「子女」には2つの意がある。

①子供の総称の意。②男の子と女の子両者を指す意。

学則に用いた「子女」については、校名を女子と指定してある事で、この場合の「子女」は、女の子を特定する事になる。

後日の学則変更では「子女」を「女子」と改めている。

10) 社会評論雑誌 久友社

「向上主義」明治38年3月15日創刊

体裁 B4判

主筆 茅原廉太郎（茅原華山）

女性に関する問題を多く取り上げ地方青少年の読者を獲得していた。

第二号（明治38年4月1日発行）に、「女子実業教育に対する誤解」第四号（明治38年5月1日発行）に「婦人の純潔」と題する孝の論説掲載あり。成立学舎在学中の論文と並び、孝の教育理念の核心が窺える。

11) 三島中洲 天保元年～大正8年

（1830～1919）90才没

漢学者

明治10年二松學舎創立

明治14年東京大学教授

正三位旭日大綬章授

12) 修身

旧制の小・中学校で教えた科目の一つで、修身という教科書があり戦中まで道徳を含め精神教育を行なった。一方、作法という教科書で、礼儀の型を教えた。また、それらには必ず言葉遣いが伴った。

13) 学寮

設置された寮の数 (16寮)

設置されていた年数 (93年間)

在寮した学生生徒 (3,000余名)

5. おわりに

嘉悦学園は、平成 15 年 10 月創立 100 周年を迎えた。戦後創立者が他界してから半世紀の余、急速な科学技術の進歩に伴い、世界的に社会の変革が進む中で教育もまた並行し新たな時代に臨む人材育成の必要に直面している。

創立 100 年を機として時代に即応する教育の展開を為さんとする時、建学の精神の原点を探り、創立者嘉悦 孝の教育理念の再認識と十分な分析は大変重要なことである。孝の深玄広博なる実学精神が、この 100 年に際し、新時代に向け己のなりわいのみで止めるものでない四海人類平和の為に活きた実学として、再び開花する事を祈念して已まない。本紀要に創立者に係わるページが設けられた事は誠に喜ばしく意義深い事である。

このページが、創立者が目指した教育の研究のよすがの一助となれば幸と、願うところである。

6. 参考資料

日本外史 頼山陽

宇土市史研究 第 12 号 宇土市教育委員会

横井小楠 熊本市教育委員会編

横井小楠展 熊本県立第二高等学校編

私の進言・怒るな働け・女の務むべき道・今日為すべきこと・他嘉悦 孝の著書

嘉悦 孝先生伝 志垣 寛編纂 昭和 15 年

嘉悦孝子伝 嘉悦康人 著

向上主義 社会評論雑誌 明治 38 年

学芸とその生涯 雄山閣出版

婦女新聞復刻版

東京都公文書館所蔵文書

嘉悦学園一覧（昭和 9 年度）

嘉悦学園 60 年史

教務資料

学籍簿

学園総務部歴年資料

卒業生台帳

翠光会会員名簿

光風会会員名簿

日本女子商業学校・日本女子高等商業学校・日本女子経済専門学校卒業生諸姉の口述記録。

※嘉悦 孝… 本名、孝子は通称。

II. 資料

1. 嘉悦 孝の関係資料学園所蔵一覧

平成15年12月現在

No	タイトル	著者名	発行	発行年月日	形態	備考	所蔵場所
1	惣菜料理のおけいこ：六合館蔵版	嘉悦孝子 口述	六合館	明治40年5月	図書		大学館
2	女四書評釋	嘉悦孝子	日本女子商業学校出版部	明治44年12月	図書		大学館 法人企画室
3	怒るな働け	嘉悦孝子	洛陽堂	大正4年1月	図書		大学館
4	怒るな働け(復刻版)	嘉悦孝子	洛陽堂	大正4年1月	図書	復刻版の印刷：第一企画出版	大学館
5	今日為すべきこと(復刻版)	嘉悦孝子	弘學館書店	大正4年3月	図書	復刻版の印刷：米田印刷所	大学館
6	現代の生活費から思わぬ貯金を生み出す法	嘉悦孝子	春秋社出版	大正5年2月	図書		大学館
7	家政講話(家庭文庫)(復刻版)	嘉悦孝子	婦人文庫刊行会	大正5年6月	図書	復刻版の発行：嘉悦学園	大学館
8	家政講話(復刻 家政学叢書：6)(復刻版)	嘉悦孝子	婦人文庫刊行会	大正5年6月	図書		大学館
9	女の務むるべき道(復刻版)	嘉悦孝子	泰山房	大正6年5月	図書	復刻版の発行：嘉悦学園 昭和61年(1986)3月の複製版と平成3年(1991)1月の再販を図書館にて所蔵	大学館
10	これからの婦人	嘉悦孝子	日本書院	大正6年10月	図書		大学館
11	家庭生活の改造(復刻版)	嘉悦孝子	日新聞	大正6年10月	図書	復刻版の発行：嘉悦学園	大学館
12	花より實をとれ	嘉悦孝子	忠誠堂	大正14年5月	図書		大学館 法人企画室
13	現代語評釋女四書	嘉悦孝子	聚芳閣教育部	大正15年5月	図書		法人企画室
14	私の進言	嘉悦孝	明治書房	昭和12年10月	図書	復刻版の発行：嘉悦学園	大学館
15	日本の婦人	嘉悦孝(講話)	日本蓄音機商会	大正12年7月	カセットテープ	初版はレコード。講話のレコードからの書き起こし付き。	大学館
16	名流婦人の今昔				写真		大学館
17	女子實業教育に対する誤解	嘉悦孝子	久友社	明治38年4月	雑誌	コピー。B4版。雑誌『向上主義』第2号に掲載。現代語訳付	大学館 法人企画室
18	婦人の純潔	嘉悦孝子	久友社	明治38年5月	雑誌	コピー。B4版。雑誌『向上主義』第4号に掲載。	大学館 法人企画室
19	嘉悦孝先生伝	嘉悦孝先生五十年記念祝賀会	嘉悦孝先生五十年記念祝賀会	昭和15年5月	図書		法人企画室
20	嘉悦孝子伝	嘉悦康人	浪漫	昭和48年10月	図書		大学館
21	65年ぶり“発掘”幻のレコード		読売新聞社	昭和63年7月8日	新聞記事	読売新聞(夕刊)18面に掲載	大学館 学館事務切 大図書館(記事のり抜き)
22	嘉悦孝子の教育とその実践—日本女子商業学校を中心として	村越(藤野)純子	慶應義塾大学大学院	平成4年	修士論文	慶應義塾大学大学院社会学研究科 教育学専攻平成4年度修士論文	大学館
23	近代女子教育に関する歴史的検討—嘉悦孝子の教育理念と実践を中心として—	下田好行	嘉悦女子短期大学	平成6年3月	雑誌	嘉悦女子短期大学研究論集第65号(第37巻 第1号) p47~66に掲載	大学館
24	嘉悦先生と漢学	齋藤喜代子		平成11年2月	講演録	「嘉悦孝没後50年記念しのぶ会」平成11年2月6日講演 顕彰記念講演の映像より書き起こし	大学館 学館(コピー)
25	戦前期女子高等教育の量的拡大：政府・生徒・学校のダイナミクス	佐々木啓子	東京大学出版会	平成14年1月25日	図書	p130、p189~193に日本女子商業学校に関する文章あり。佐田節子先生のコメントもあり。	大学館

No	タイトル	著者名	発行	発行 年月日	形態	備考	所蔵場所
26	嘉悦孝子		熊本日日新聞社	平成14年6月11日	新聞記事	熊本日日新聞(夕刊)に掲載。現物未確認	
27	近代日本における「女子教育家」の役割—嘉悦孝子を事例として	村越純子	鶴岡八幡宮 悠久事務局 (おうふう 発行)	平成14年7月30日	雑誌論文	雑誌『悠久』第90号のp72~56に掲載。特集「近代教育の黎明」の1論文	大学 図書館 法人 企画室
28	学祖嘉悦孝と嘉悦学園の歩み(シリーズ学祖とその時代)	編集部(藤野純子)			雑誌論文		大学 図書館 (コ ー)
29	嘉悦学園六十年史	嘉悦学園 六十年委 員会編	嘉悦学園	昭和38年10月	図書		大学 図書館
30	嘉悦学園80年の歩み	嘉悦学園 広報室	嘉悦学園	昭和58年10月	図書	小冊子(パンフレット)	大学 図書館
31	嘉悦学園のあゆみ— 九十周年を迎えて—	嘉悦学園 90年史編 纂委員会	嘉悦学園	昭和38年10月	図書		大学 図書館
32	嘉悦学園一覽	嘉悦学園	嘉悦学園	昭和9年	図書		大学 図書館 法人 企画室
33	嘉悦学園一覽	嘉悦学園	嘉悦学園	昭和11年	図書		法人 企画室
34	嘉悦学園伝統の礎	嘉悦学園				家紋校章の由来	大学 図書館 法人 企画室
35	近代熊本の女たち (上)	家族史研 究会	熊本日日新聞社	昭和56年10月	図書	伴栄子『嘉悦孝子—女子職業教育をめざす』(p115~132)	大学 図書館
36	東北の維新と小楠塾の人々	大谷吉人	岩手出版	平成4年8月1日	図書	第11章に「2.嘉悦孝」(p116~170)	大学 図書館
37	華山追尋	茅原健	朝日書林	平成8年3月	図書	p121~129	常理 務事
38	『婦女新聞』と女性の近代	『婦女新聞』 を 読む 会	不二出版	平成9年6月20日	図書	p25に『婦女新聞』に孝が書いた記事に関する福島貞子とのやりとりが記載。p91に『婦女新聞』執筆者一覽内に「嘉悦孝子(掲載回数32回)」の記載	大学 図書館
39	熊本の歴史を彩った人々			平成13年4月	記事	熊本の「市政だより」に掲載。2001年4月号が「嘉悦孝子」の回。 http://www.city.kumamoto.kumamoto.jp/shioseidayori/4/pages/history/	大学 図書館 (H P の コ ー ビ ー)
40	龍のごとく：宮崎とう天伝	上村希美 雄	葦書房	平成13年7月15日	図書	2章「大陸への夢」の『恋におちて』の文中に孝の名前あり。もとは熊本日日新聞で、平成12年6月9日夕刊に掲載。	大学 図書館
41	近代肥後異風者伝： (9) 嘉悦孝		熊本日日新聞社	平成13年12月29日	新聞記事	熊本日日新聞(朝刊)に掲載。HPでも閲覧可。 http://www.city.kumamoto.kumamoto.jp/shioseidayori/4/pages/history/	大学 図書館 (記 事 の 切 り 抜 き)
42	熊本の女性は元気 (特集)		熊本県	平成14年9月1日	記事	熊本県の広報誌「コラためんなる」Vol.17の1pに肥後の猛婦として嘉悦孝の名前が挙がっている。HPでも閲覧可。 http://www.pref.kumamoto.jp/public_pr/magazine/koria/2002	大学 図書館 (H P の コ ー ビ ー)
43	新生面=銀座に生きた実学教育		熊本日日新聞社	平成15年3月16日	新聞記事	熊本日日新聞(朝刊)の鈴木砂女さん(本学卒業生)をしのぶ記事に、嘉悦孝の実学教育について述べられている。	大学 図書館 (記 事 の コ ー ビ ー)
44	近代日本の女性と大学教育：教育機会開放をめぐる歴史	湯川次義	不二出版	平成15年3月31日	図書	p62に嘉悦孝のコメントあり。	大学 図書館

No	タイトル	著者名	発行	発行 年月日	形態	備考	所蔵場所
45	卒業論文	日本女子 高等学校 商業科 第6回卒業 生			論文	第6回卒業生：7点 第7回卒業生：9点 第8回卒業生：8点 第9回卒業生：20点 第10回卒業生：6点、不明：1点 計：51点	大学 図書館
46	船上山と夜浜見ヶ浜の場面	小林清親 (版画)			額装	頼山陽『日本外史』に基づく。明治期の作品。2点。	法人 企画室
47	嘉悦会名簿 付・嘉悦家七百年の証		嘉悦学園	平成3年9月 28日			大学 図書館
48	回顧百年—東京商業 から東京学園へ	東京学園 高等学校	東京学園高 等学校	平成元年5月 15日	図書	嘉悦学園創立時校舎を借用した学校	大学 図書館
49	回顧百年(年表)	東京学園 高等学校	東京学園高 等学校	平成元年5月 15日	図書		大学 図書館
50	桜丘女子学園 60 年史		桜丘女子学 園	昭和59年10 月28日	図書	昭和27年～同34年 嘉悦学園 と合併した学園	法人 企画室
51	宇土市史研究 第 12号		宇土市教育 委員会	平成3年3月 30日	冊子		法人 企画室
52	図書館祭<而立>		熊本県立第 二高等学校 図書委員会	平成4年10月 3日	冊子		法人 企画室
53	横井小楠展		熊本県立第 二高等学校	平成4年10月 3日	冊子		法人 企画室
54	横井小楠と維新像		熊本国際コ ンベンショ ン協会	平成12年3月 31日	パン フレ ット	2種類あり	法人 企画室
55	横井小楠		熊本市教育 委員会	昭和57年7月 15日	コピー 冊子		法人 企画室
56	くまもと		熊本市		コピー 冊子		法人 企画室
57	卒業記念品(扇)					嘉悦 孝の遺墨入り	法人 企画室
58	嘉悦孝の愛用硯・筆						法人 企画室
59	嘉悦孝の薙刀					1振	法人 企画室
60	嘉悦孝の墨絵(掛軸)					6点	法人 企画室
61	嘉悦孝の墨絵(額装)					11点	法人 企画室
62	嘉悦孝の遺墨(額装)					19点	法人 企画室
63	嘉悦孝の書簡(毛筆)					16点 (未表装)	法人 企画室
64	嘉悦孝の書簡(硬筆)					31点 (未表装)	法人 企画室
65	嘉悦孝の書簡(額装・ 毛筆)					3点	法人 企画室
66	嘉悦孝の書簡(巻物)					1点	大学 図書館

※孝は、多くの遺墨を残した。その筆致は達筆且つ男性的で力強く、加えて草体に至っては優雅にして小気味のいい見事な筆の舞というべきか、書簡など墨痕あざやかに、したためられている。また文章に於いては、形式を限定せずに平明な、いわゆる写生文から難解な文語体のもの迄、用途に応じ、その文章の格調如何を考慮し使い分けている。

<参考> 国立国会図書館「近代デジタルライブラリー」で閲覧可能なもの。

<http://kindai.ndl.go.jp/img/>

No	タイトル	著者名	発行	発行 年月日	形態
1	料理講習筆記：信濃教育会小県部会上田婦人談話会（デジタル版）	嘉悦孝子	百合舎書店（上田）	明治36年2月	図書
2	覚悟と忍耐（この華：第2巻）（デジタル版）	嘉悦孝子	成女学校校友会	明治36年4月	図書
3	新家庭（家庭小説：2巻）（デジタル版）	嘉悦孝子	金港堂	明治37年2月	図書
4	惣菜料理のおけいこ（デジタル版）	嘉悦孝子	宝永館	明治40年6月	図書
5	家庭学講話（デジタル版）	嘉悦孝子	同文館	明治41年12月	図書